

# 肢体不自由特別支援学校における自立活動専任の役割に関する研究（2）

自立活動専任スタッフ業務の「認知度」と「有用度」に関する全校アンケートより

○浦井 尚女 浅野 裕加子 内山 誉利子 三木 容子 三宅 有 岩佐 昌英  
 (大阪府立堺支援学校) (同左) (同左) (同左) (同左) (奈良学園大学)

KEY WORDS: 自立活動専任 専門性 校内巡回システム

## （はじめに）

本校では、平成 24 年度に自立活動の指導体制を大きく改訂し、「分掌 自立活動部」と「自立活動専任スタッフ」を新たに配置した。本研究では、自立活動専任スタッフの主な業務について、その“認知度”と“有用度”をはかり、特色である『校内巡回システム』のより有効な展開のあり方について考えたい。

## （方法）

全校教員を対象に、「自立活動専任スタッフの業務と活用状況についてのアンケート（体制 3 項目と、支援内容 8 項目）（Table 1 に示す）を実施する。その結果から、業務の認知度や活用状況等について、学部別（高等部は 2 課程）、本校在籍年数別に比較検討する。

Table 1 自立活動専任スタッフの業務と活用状況のアンケート

指導体制	支援内容
①相談巡回	④個別の指導計画作成サポート
②全校巡回	⑤授業計画のサポート
③入り込み	⑥各種アセスメント
	⑦指導に役立つツール等の研究や開発
	⑧これまでの指導実践等の蓄積やデータ化
	⑨校内研修の講師
	⑩給食巡回
	⑪補装具適合の相談

## （結果）

体制の認知度では、相談巡回（相談希望に基づく巡回）、全校巡回（希望は無いが、専任スタッフから授業の場に向く巡回）、入り込み（専任スタッフが 1 授業担当者となる）ともに、全学部で 80%を超えており、専任スタッフの業務が全校的に周知されていることが示された（Fig. 1）。

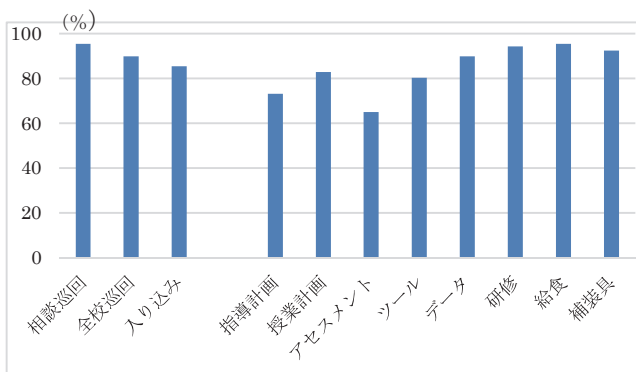


Fig. 1 専任スタッフ業務の認知度

支援内容の認知度では、全学部とも 8 項目中 6 項目で 80%を超え、支援内容についても全校的に周知されていることが明らかになった。各種アセスメント（以下、アセスメント）、個別の指導計画作成サポート（以下、指導計画）の 2 項目は 80%を下回っていたものの、学部別に見てみると、小学部では 2 項目とも 80%を超えており、学部間での認知度の差がみられた。

次に、活用状況では、体制 3 項目のうち、相談巡回と全校巡回について学部間の差に注目したところ、中学部はい

ずれも 30~40%台、高等部は相談巡回が 57%で全校巡回は 30%台であった。小学部はどちらも 70~80%台であった。活用度の高さが際立つ結果であった。

さらに、“活用状況と有用度”について、本校在籍年数 5 年以下教員と 6 年以上教員の差を比較してみたところ、中学部では差がほとんどなかったが、小学部・高等部においては、明確な差がみられた。

小学部の 5 年以下教員では、相談巡回が 90%台、全校巡回が 60%台、“指導に役立つツール等の研究や開発”（以下、ツール），“校内研修の講師（以下、研修）”、補装具適合相談で活用度が 80%台と、有用度も高い結果であった。

高等部普通課程 6 年以上教員では、相談巡回・全校巡回および支援内容 6 項目でも活用度が 50%を超え、そのうち 5 項目は有用度も高い結果が示された。（Fig. 2）

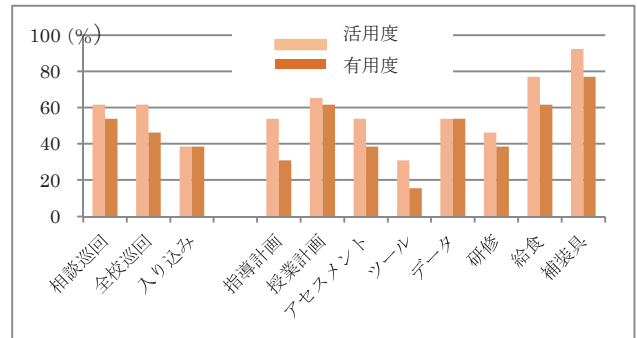


Fig. 2 高等部普通課程 6 年以上 活用と有用度  
 一方、活用度は低いが有用度が高い項目（アセスメント、授業計画、データ）は、小学部 5 年以下教員と高普通課程 6 年以上教員に共通する結果がみられた。

## （考察）

アンケート結果から、専任スタッフが自立活動を中心とした教育活動を支援する存在として認知され、システムとして機能していることが示された。全校巡回に関しては、居ながらにして支援を受けられる手軽さと、指導内容等の提供が授業に即反映できるメリットから、一定の活用度と有用度がみられ、有効な支援システムであることが示された。活用度の学部間の差からは、小学部の活用度が高い要因として、旧専任体制時から、学部と専任部の合同学習会を開催する等、学びの場を共有し続けているためと考えられる。一方、支援内容の“アセスメント→指導目標設定の支援”で、全校的に有用度は高いが活用が少ない要因として、支援に時間がかかる、学部教員のニーズがなければ成立しにくい点が影響していると推察された。

以上のことから、①全校巡回において、“実態把握の段階からの支援”を専任スタッフのスタンダードとするための支援システムの検討、②学部ニーズの違いをふまえつつ、有用度の高い支援内容を積極的に展開していくことが今後の課題であると考えられる。

(URAI Syouko, ASANO Yukako, UCHIYAMA Yoriko, MIKI Youko, MIYAKE Tamotu, IWASA Masahide)